

福知山市住民自治検討会議（第10回）概要報告

〔日 時〕平成30年10月9日（火）15:00～17:00

〔場 所〕福知山市消防防災センター

〔出席者〕委員…12人、事務局…8人、傍聴者…4人

■開会

■意見交換（自治会・公民館と地域づくり組織との関係性の整理）

① 自治会長負担の確認について

- ・ 充て職が多い。これを減少させることが負担軽減のために必要である。
- ・ 自治会の役割を棚卸し、自治会を円滑にするための機能がいる。
- ・ 自治会長の充て職が多いという話であるが、運営委員の代表者等は忙しいが、他の方はそんなに忙しいか不明である。
- ・ 仕事を引退された方にとっては、そんなに大きな負担とは思わない。
- ・ 敬老会や地域のイベント、総会等に従事しなければならないが、それを地域内で分配すればよいと思う。
- ・ 「自治会長は多忙である」は、考え方を変えなければならないのかもしれない。
- ・ 行政から依頼される配布物や回覧などは、新しい組織の立ち上げにより、何が、どう減るのかを検討することが必要。
- ・ 自治会長が1年で交代してしまい、経験の積み上げをしていくことができないということや、担い手不足などが、大変といわれる要因だと思う。
- ・ 地域づくり組織は、複数年継続して携わってもらえるようにサポートできる組織であるとよい。
- ・ 今の業務はどこが引き受けるのか考えなければならない。まず、どのような組織の役割になるかを考えてから、振り分ける（棚卸しする）のがよいと思う。

② 公民館の役割等について

- ・ 公民館に役割をまとめるとなると地域公民館に人手がたくさん必要になることが考えられる。
- ・ 地域公民館がまちづくりセンター（コミュニティセンター）として機能するのがよいのではないかと？地域公民館がまちづくりセンターとして、（人材育成を含めて）今の業務を広げていくイメージ。
- ・ どれだけ人材を配置できるのかはやはり鍵になる。
- ・ 小学校区単位で地域づくり組織がスタートするイメージのほうが強いので、その点を整理しなければならない。
- ・ 各校区で組織ができた場合、地域公民館がまとめる役割を想定できる。将来的なことを考えると、二重組織にすることは無駄であり、その点の整理が必要。
- ・ 公民館の扱いを地域に任せるのではなく、市の中では統一しておくべき。
- ・ 地域公民館が地域と連携していくことは可能であるはず。

- ・ これまでの社会教育の活動とともに、地域協議会の役割を公民館が担っていく場合には、やはり何をするのか明確にしておかなければならない。いきなり、やってくれでは、当然できない。
- ・ 朝来市は、まちづくりセンター（小学校区）と地域まちづくりセンター（中学校区）をつくっている。まちづくりセンターは、各地区のシンクタンクとして生涯学習機能をつかさどる。地域まちづくりセンターは各地域の個性を活かした活動や課題解決の手助けをする。そこにはやはりセンター長が必要。
- ・ 地域づくり組織はピラミッド型の組織が理想的。
- ・ 小学校区ベースの地域協議会ができるのが理想と考える。
- ・ 次の段階として小学校区を集約する中学校区単位の包括的な組織ができるのがよい。
- ・ 地域づくり組織の関係性の整理の中で言うと、各地域（小学校区で）で協議会をつくる。さらに、コーディネートするまとめ役が必要では。
- ・ 住民の自治組織、自治活動というのは、本来の公民館法や社会教育法にのっとった活動であると思う。住民あつての制度であるので、いかに法律に適用させるかを考えるのは二の次でよいと思う。法律に抵触することもないはず。
- ・ 公民館の活動を残しつつ、包括的なコミュニティセンターとしての役割に重点を置くことができればよいと考える。

③ その他（組織の活動費について）

- ・ 最終的には、包括型補助金（使用用途は地域に一任）の考え方が必要だと思われる。
- ・ 各地域に補助金を任せなければ、地域活動はしにくい。
- ・ 資金の使い方は今後の議論になってくる。

【まとめ】

『公民館の機能の中で、特に人材育成や地域づくり（コミュニティセンター）の役割に重点をおき、新しい仕組みとして地域づくり組織を公民館が支えていく。』